



総合文化センター どうなってんの～？

住民の皆さまから、

『総合文化センターどうなってんの～？』との声が多く寄せられています。

そこで💡これまでの経緯や現状などについて、お伝えします。

◆総合文化センターの必要性を分かりやすくお伝えするため、(仮称)防災・文化センターと改めました。ご理解いただきますようお願いいたします。

田尻町にも図書館を整備し、 人生100年時代の 豊かな生活を築きましょう！

使いやすい音響・照明効果の整ったホールや図書館などを整備することで、子どもから高齢者まであらゆる世代の学習環境や文化活動などが格段に充実します。公民館は老朽化しており各種設備や機能面においても十分な活動が難しい状況です。人生100年時代の質の高い生活のために整備します。

いつ起きてもおかしくない 南海トラフ巨大地震に

ソフト・ハード両面で備えましょう！

南海トラフ巨大地震はいつ起こってもおかしくないとわれています。津波などにも対応する避難所としての防災拠点となります。一時避難場所の駅上広場には建物がないため、避難時の暑さ、寒さ、雨露をしのぐことができません。安心して避難していただけるよう整備します。



◆防災・文化センターのあり方などを検討するため、防災専門家をはじめとする有識者会議の設置条例を令和7年3月議会に提案しましたが、否決となりました。

たじり8,000人の大家族とともに
防災・文化センターを！

これまでの主な経過

R3.3

住民や公民館利用者などの参加により基本構想を策定、5つの案から議会の賛同を得て駅上広場建設に決定

R4.3

議会の賛同を得て、総合文化センター基本計画(以下、計画)を策定

R5.5

(議員改選を経て)議員提案の「(仮称)田尻町総合文化センター建設の見直しに関する決議(計画の見直しなど専門家委員会設置を求める決議)を議会が可決

R5.11

町長選挙で総合文化センター建設を公約した現町長が当選

R6.3

R5.5の決議にある専門家委員会設置の提案に議会が否決(以降、合計4回否決)し、田尻町総合文化センター建設に関する請願(1,300名を超える署名)を議会が不採択、議員提案の「(仮称)田尻町総合文化センター建設計画を廃止し一貫教育施設建設計画に集約・複合化を求める決議」を議会が可決

R6.4

議員提案の「田尻駅上広場に(仮称)田尻町総合文化センター建設計画の廃止の是非を問う住民投票条例」が町長の再議により廃案

R6.9

(仮称)田尻町総合文化センターに関する請願(R6.3の決議の撤回と総合文化センター建設を求める請願、1,500名を超える署名)を議会が不採択

R7.3

膠着状態を打開するため、町長、町議会議員のダブル選挙で再度民意を問うよう自らの不信任案の議決を求め、町長から議会議長にあて要望書を提出

R7.5

議員提案の「田尻駅上広場に(仮称)田尻町総合文化センター建設計画の是非を問う住民投票条例」が町長の再議により廃案

主なご意見と町の考え方



Q 公民館は耐用年数が27年も残っています。生涯学習は公民館で行えるので、総合文化センターは不要なのではないですか？

A

公民館は完成から40年以上が経ち、ステージは狭く図書蔵書数など今後の生涯学習の場として相応しくないものです。計画では、公民館の改装など5パターンを比較検討し、駅上広場に建設することが全議員の賛同を得て決定していました。



Q 災害時の避難場所は十分あるので、防災の面でも総合文化センターは不要なのでは？

A

南海トラフ巨大地震での予測避難者は、1,617人で、通常時であればふれ愛センターと小学校で収容できます。しかし、感染症流行時では収容人数は850人となり不足します。防災・文化センターは津波浸水想定区域外での新たな避難所として、住民の身体や健康を守るために必要です。



Q 駅上広場に総合文化センターを建設するのではなく、大規模災害時の応急仮設住宅建設用地として広場のままにしておくべきではないですか？

A

応急仮設住宅の建設は重要ではありますが、災害発生の日から避難生活を営むことができる避難所がまず必要となります。また、応急仮設住宅建設候補地として防災協力農地の登録を進めていくこととしましたので、農地所有の方々には、なにとぞご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



Q 防災施設が必要なのであれば、防災に特化した避難所を建設すればいいのではないですか？そうすれば、維持管理費も抑えられるのではないですか？

A

防災・文化センターは、南海トラフ巨大地震に対応する避難所や防災拠点として情報や物資等を提供する施設です。平常時は、図書館を含むこれからの生涯学習・文化的活動の拠点として住民の豊かな生活を支える施設となります。より多くの住民に利用していただくことで、災害時においても共助の活動を円滑に行えるものと考えています。避難所機能だけの公共施設を建設というご意見ですが、災害時のみの利用ではなく、平日頃から住民生活の向上のためにフル活用するほうが有効利用であると考えています。



Q この総合文化センター計画では、田尻町のように小さな町には不釣り合いです。このような大規模の施設でなくても良いのではないですか？

A

これまで議会の賛同を得て約4,000万円の経費を費やし、住民や公民館利用者の意見や先進地調査等を行い、かつ、図書館は最低蔵書数を50,000冊として、今後の文化活動を支える必要面積（約4300㎡）を算定しました。小さな町に不釣り合いな規模とのご意見ですが、ふれ愛センター（約6400㎡）も建設当初は同様の意見がありました。しかし、住民の積極的な活動や新たな工夫などで、今では福祉の拠点として必要不可欠な施設です。防災・文化センターも住民とともに創意工夫を行いながら発展してまいります。

